

# 「人生会議（ACP：Advance Care Planningの愛称）」の実践

～ 大学地域カフェ活動を通して ～

Practice of “Life Conference (ACP : Advance Care Planning)”

Through University Community Café activities

鈴木 裕子 Yuko Suzuki

和洋女子大学 Wayo Women's University

Key words: Life Conference (ACP : Advance Care Planning), University, Community Café activities

目的：地域の在宅緩和ケアを推進する「人生会議」の実践を振り返り、大学看護学部在宅看護学領域の役割と機能を明確にする。

背景：“2025年問題”と言われる「看取り難民」など報道されるほど逼迫した状況にある。保健医療福祉に関わる人材不足も深刻である。2000年に介護保険法が施行され地域包括ケアシステムが推進されてきた。

今回は、地域緩和ケアネットワークモデル(WHO,2007)の提言に照らして、ACP(アドバンス・ケア・プランニング)の愛称である「人生会議」への取組みについて報告する。

方法：

1)期間：2020年から2025年

2)対象：(1)地域カフェは、一般住民、(2)地域ケアカフェは、ケアする側の人を対象としている。

3)周知方法：(1)町内会の定例会で直接呼びかけ大学内外に掲示を行い募集した。また人からの紹介もある。

(2)ケアする側の方は地域カフェ参加者でケアする側の人に呼び掛けた。他のカフェから紹介もある。

実施手段：2020年Covid-19の影響で集合を取り止め、(1)地域カフェは、電話等で交流を続けている。(2)地域ケアカフェ第1回は、2月に遠隔(電話)で、8名と、第2回は、9月に遠隔(ZOOM)で、6名と「人生会議」を実施した。時間は、電話が1回約20分、ZOOMによる「人生会議」は90分であった。

調査項目：(1)地域カフェは、属性と外出頻度や交流頻度、感想、期待する事など。(2)地域ケアカフェは、属性と活動経歴、感想、役立つと思った事、期待する事など。

4)分析方法：実践のプロセスを振り返る。また参加者の語りや、自記式調査用紙への記載から量的質的に分析する。地域緩和ケアネットワークシステムモデル(WHO-O,2007)に照らして検証する。

5)倫理的配慮：大学倫理審査委員会の承認を得た。

結果：(1)地域カフェ活動は、2020年Covid-19の影響から集合を取り止め電話により行った。80代男性は、電話した際に、老人会役員会を近く再開する予定や、サポートがあればZOOMもやってみたいと語り、遠隔

による交流に興味や意欲を語った。

(2)地域ケアカフェ活動は、第1回は電話で8名(女性3名、男性5名)と交流し、活動状況など情報交換ができた。消防団として孤独死対策を行っている事、多世代型カフェを運営する人は、困窮している母子や精神疾患を抱えた人が多く、救急搬送に同行した際の問題意識から地域のライフラインの必要性がある事が語られた。また近隣大学教員や同大学の学生は、買い物や草むしり等、要望に合わせた学生の主体的なボランティア活動の紹介を行った。そして町づくり研修会に参加した介護資格のある人は、個人として家族や知人の介護や支援を行った体験を語り、介護系のカフェ運営者は介護だけでなく若者が集まるフリースペースの取組みを、NPOのボランティア団体の人は、人生会議の経験談を、他には障がいのある子どもの支援、家族の看取り経験などが次々と語られた。

地域ケアカフェ第2回(ZOOM)「人生会議 With コロナ」(女性1名、男性5名)は、参加者が所属するNPOのボランティア団体と共催する事ができた。人生会議のプログラムは、最初に地域緩和ケアネットワークシステムモデルの図を用いて施策の動向や地域の現状を紹介した。次いで継続や共催の意義を話し合い次の計画をたてた。後日、参加者の1人から、人生会議で紹介した「まちの保健室」を見学し、連携する事になったと報告があった。

考察：地域緩和ケアネットワークシステムモデル(WHO-O,2007)は3次(高度・研究)、2次(専門・チーム)、1次(全医療者)、0次(地域住民)緩和ケアレベルの活動を提唱している。パートナーシップに基づくカフェ活動は0次にあたり、参加者の語りや調査結果から効果が期待される。

大学看護学部在宅看護学領域には、3次から0次への教育活動と連携を強化する役割と機能がある。地域の在宅緩和ケアを推進するために、地域カフェ(ケアカフェ含む)活動による「人生会議」への取組みについて「連携と共催」の継続が重要であると考えられる。

参考文献：WHO：Palliative Care (Cancer Control; WHO Guide; Module 5) . P29-31.2007. Geneva.